

町民ボランティアの洞爺湖すみれの会（毛利 納会長）が、観光シーズンを迎え、きれいな花で観光客を



ハンギングバスケットを製作するすみれの会の皆さん

もてなそうとハンギングバスケットやスタンディングミニの制作を行いました。

同会が毎年この時期実施していて、今年は5月24日に恵庭市の「サン・ガーデン」、27日には入江にある「緑化ハウス」でのべ41人が参加し、約70個を作り上げました。

6月中旬までには、洞爺湖の玄関口であるJR洞爺駅前広場と洞爺湖温泉街や湖畔遊歩道に飾られます。

## きれいな花でおもてなし すみれの会花飾り制作

## 新旧の遊びで楽しむ あそびフェスタ

あそびフェスタINとうや湖（とうや湖レクリエーションクラブ主催）が、5月12日母と子の館で行われ、約20人が参加し、新旧の遊びを楽しみました。

始めに、英国青年のアダムさんと外国語指導助手のジェレミーさんが日本語と英語による絵本の読み聞かせを行い、子どもらは、言葉の違いに興味津々。

引続き、ステッキを使って移動するキャッチング・ザ・スティックや長なわとびに全員がチャレンジしました。

そのほか、うでずもうやあやとり、お手玉などのむかしの遊びもあり、館内のあちこちに歓声が響いていました。



長なわとびに挑戦する子どもら

## 「大きくなって帰ってきてね」 洞爺湖のマス放流

湖の豊かな自然に触れてもらおうと洞爺湖漁業協同組合（篠原 功組合長）が、毎年実施しているマス放流が、5月17日とうや小学校と洞爺湖温泉小学校の児童をそれぞれ招き行われ、合わせて体長5センチほどに育ったヒメマス4万匹、サクラマス4万匹の稚魚を洞爺湖に放しました。

温泉小近くの湖畔で行われた放流には、1、2年生15人が参加。

児童らはプラスチック製のコップに移し替えた稚魚を「大きくなって帰ってきてね」と声をかけながら放流。3～4

年後に成長して戻ってくるのを楽しみにしていました。



マスの稚魚を放流する温泉小の児童ら

町内の施設、学校への雑巾寄贈や町内清掃などを行っているボランティアグループ「ななかまどの会」（坂井千枝会長）



桜の植樹を行う「ななかまどの会」の皆さん

が、5月28日グリンステイに隣接する町有地に、エゾヤマザクラの苗木5本を植樹しました。

この日は、以前に植樹した桜が枯れているのを会員が確認し、会員5人が参加して、6年ぶりに植樹を行いました。

坂井会長は「会としても機会があれば植樹を続けていきたい」と話し、植樹後は洞爺湖温泉の湖畔遊歩道の清掃活動に汗を流しました。

## 桜植樹で名所に期待 ボランティアサークル「ななかまどの会」



# まちのわだい